

モニール・アブドゥラ・モハメド・アルマスニ 研究員（イエメン）



はじめまして。私はイエメンから来ましたモニール・アブドゥラ・モハメド・アルマスニと申します。私は、1998年からイエメンにある国立地震火山観測センター（SVOC）で勤めています。そして、2006年以降は主に地震リスク軽減の分野で業務を行っています。

イエメンはアラビア半島の先端に位置するアデン湾に面した国で、地震を引き起こす活発なプレート境界付近に位置しています。国土面積は528,000平方キロメートルで、人口は22,000,000人です。地形的にみると、イエメンには多くの起伏ある山脈や、高地、砂漠、そして海岸沿いの平地などがあります。また、自然災害の視点でみると、地滑りや地震、洪水などに影響を受けやすい環境にあります。

残念ですが、イエメンにおいては災害軽減のための効果的対応である防災対策は未だあまり整備されていません。特に、災害後の復興復旧に焦点をあてた計画の策定は不十分です。さらに、公的な早期警報システムなども配備されず、早急な防災対策が必要となっています。

さて、私が客員研究員として在籍するADRCでの主な研究は、イエメンの首都であるサナ市を対象地域としています。内容は、過去の地震データやシナリオを用いて、今後発生する地震被害の損害算出に関するものです。この研究を進めることにより、サナ市におけるコミュニティのための防災計画のためのガイドライン策定において、成果が効果的に活用できると思います。

最後に、今回客員研究員として日本滞在の機会を頂いた日本政府およびADRC、さらにメンバー国の皆さまのご尽力に対しまして、感謝を申し上げます。また、私の派遣について承認をいただいたイエメン政府におきましてもお礼を申し上げたいと思います。